

平成 14 年度 大分大学 2 次試験前期日程 (数学問題)

工・経済・教育福祉科学部 平成 14 年 2 月 25 日

- 工学部は, [1] ~ [4] 数 II・III・A・B・C(100 分)
- 経済学部は, [1], [2], [3] (1)(2), [5] 数 II・A・B (100 分)
- 教育福祉科学部は, [1] ~ [3] 数 II・A・B (80 分)

[1] 条件 $a_1 = 0$, $na_{n+1} = (n+1)a_n + 2$ ($n = 1, 2, 3, \dots$) で定義される数列を $\{a_n\}$ とし, 条件 $b_1 = 1$, $nb_{n+1} = (n+1)b_n + n(n+1)$ ($n = 1, 2, 3, \dots$) で定義される数列を $\{b_n\}$ とする.

- (1) a_n, b_n を表す n の式を推定し, それらが正しいことを数学的帰納法を用いて証明しなさい.
- (2) $\{a_n\}$ と $\{b_n\}$ に共通に含まれる数を小さい順に並べてできる数列を $\{c_n\}$ とするとき, c_n を表す n の式を求め, 簡潔にその理由を述べなさい.
- (3) $\{c_n\}$ の初項から第 n 項までの和を求めなさい.

[2] 放物線 $y = ax^2 - b$ が, 3 点 $A(0, -2)$, $B(2, 0)$, $C(-2, 0)$ を頂点とする $\triangle ABC$ の 2 辺 AB, AC に接している. ただし, 接点は三角形の頂点上にないものとする.

- (1) a と b の関係式および, a と b それぞれの値の範囲を求めなさい.
- (2) $a = b$ のとき, この放物線と $\triangle ABC$ の辺 BC とで囲まれた図形の面積を求めなさい.

[3] 1 の 3 乗根のうち, 実数でないものの 1 つを α とするとき, 複素数平面上の 3 点 $A(\alpha)$, $B(\beta)$, $C(\alpha^2)$ を頂点とする $\triangle ABC$ の重心が $\frac{\sqrt{3}}{3}$ で表される.

- (1) 点 B を表す複素数 β を求めなさい.
- (2) $\triangle ABC$ の外接円の周上の点を表す複素数を z とするとき, z の満たす式を求めなさい.
- (3) z が (2) で求めた式を満たすとき, $w = \frac{1}{\bar{z}}$ を満たす点 w のえがく図形を求めなさい.

4 a を定数とし, 2 つの関数を $f(x) = xe^{-x}$, $g(x) = ax$ とする.

- (1) 関数 $h(x) = f(x) - g(x)$ が極値をもつような a の値の範囲を求めなさい.
- (2) 曲線 $C: y = f(x)$ と直線 $l: y = g(x)$ が 2 点で交わるとき, この曲線 C と直線 l とで囲まれる部分の面積を求めなさい.

5 点 O を原点とする空間の 2 点 $A(1, 3, 5)$, $B(6, -2, 10)$ の位置ベクトルをそれぞれ \vec{a} , \vec{b} とし, 直線 AB 上の点 P の位置ベクトルを \vec{p} とする.

- (1) $|\vec{p}|$ が最小となる点 P を求めなさい.
- (2) (1) で求めた点 P に対して, $\triangle OAP$ の面積を求めなさい.

正解

1 (1) 条件式から

$$a_{n+1} = \frac{n+1}{n}a_n + \frac{2}{n}, \quad b_{n+1} = \frac{n+1}{b}b_n + n+1 \quad \cdots (*)$$

上式から $a_1 = 0, a_2 = 2, a_3 = 4, a_4 = 6,$

$$b_1 = 1, b_2 = 4, b_3 = 9, b_4 = 16$$

これから, $a_n = 2n - 2, b_n = n^2$ と推定する.

[I] $n = 1$ のとき $a_1 = 2 \cdot 1 - 2 = 0, b_1 = 1^2 = 1$

よって, $n = 1$ のとき, $(*)$ が成り立つ.

[II] $n = k$ のとき, $(*)$ が成り立つと仮定すると

$$a_{k+1} = \frac{k+1}{k}(2k-2) + \frac{2}{k} = 2(k+1) - 2$$

$$b_{k+1} = \frac{k+1}{k} \cdot k^2 + k + 1 = (k+1)^2$$

よって, $n = k+1$ のときも $(*)$ が成り立つ.

[I], [II] から, すべての自然数 n について, $(*)$ が成り立つ.

(2) $\{a_n\}$ は 0 以上の偶数列であり, $\{b_n\}$ は平方数の列であるから,
 $\{c_n\}$ は偶数の平方数の列である.

$$\text{よって} \quad c_n = (2n)^2 = 4n^2$$

(3) (2) の結果から

$$\sum_{k=1}^n c_k = \sum_{k=1}^n 4k^2 = 4 \times \frac{1}{6}n(n+1)(2n+1) = \frac{2}{3}n(n+1)(2n+1)$$

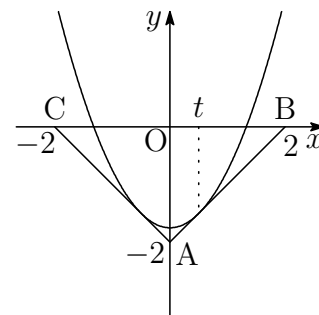
補足 漸化式から $\frac{a_{n+1} + 2}{n+1} = \frac{a_n + 2}{n}, \quad \frac{b_{n+1}}{n+1} = \frac{b_n}{n} + 1$

第 1 式から $\frac{a_n + 2}{n} = \frac{a_1 + 2}{1}$ ゆえに $a_n = 2n - 2$

第 2 式から, $\left\{\frac{b_n}{n}\right\}$ は, 初項 $\frac{b_1}{1} = 1$, 公差 1 の等差数列であるから

$$\frac{b_n}{n} = 1 + (n-1) \cdot 1 \quad \text{よって} \quad b_n = n^2$$

- 2 (1) 放物線 $y = ax^2 - b$ および $\triangle ABC$ はともに y 軸に関して対称であるから, これらが辺 AB で接する条件を求める. $f(x) = ax^2 - b$ とし, 線分 AB 上の接点を $(t, t - 2)$ とすると ($0 < t < 2$)



$$f(t) = 2 - t, \quad f'(t) = 1$$

第1式から $at^2 - b = t - 2 \quad \dots \textcircled{1}$

$f'(x) = 2ax$ より, 第2式から $2at = 1 \quad \dots \textcircled{2}$

$\textcircled{2}$ から $a = \frac{1}{2t} \quad \dots \textcircled{2'}$ これを $\textcircled{1}$ に代入すると

$$\frac{1}{2t} \cdot t^2 - b = t - 2 \quad \text{ゆえに} \quad b = 2 - \frac{t}{2} \quad \dots \textcircled{3}$$

$0 < t < 2$ であるから, $\textcircled{2'}$, $\textcircled{3}$ より $a > \frac{1}{4}$, $1 < b < 2$

$\textcircled{2'}$, $\textcircled{3}$ から t を消去すると $b = 2 - \frac{1}{4a}$

- (2) $a = b$ のとき, (1) の結果から

$$a = 2 - \frac{1}{4a} \quad \text{整理すると} \quad 4a^2 - 8a + 1 = 0$$

$a > \frac{1}{4}$ に注意して, これを解くと $a = \frac{2 + \sqrt{3}}{2}$

また, 放物線 $y = ax^2 - a$ と x 軸との交点の x 座標は $x = \pm 1$ によって, 求める面積を S とすると

$$\begin{aligned} S &= - \int_{-1}^1 (ax^2 - a) dx \\ &= -a \int_{-1}^1 (x+1)(x-1) dx \\ &= \frac{a}{6} (1+1)^3 = \frac{4}{3}a = \frac{4 + 2\sqrt{3}}{3} \end{aligned}$$

3 (1) 1の3乗根は方程式

$$x^3 = 1 \quad \text{すなわち} \quad (x-1)(x^2+x+1) = 0$$

の解で、このうち、実数でない解の1つが α であるから

$$\alpha^2 + \alpha + 1 = 0 \quad \text{ゆえに} \quad \alpha^2 = -\alpha - 1$$

$\bar{\alpha}$ も2次方程式 $x^2 + x + 1 = 0$ の解であるから、解と係数の関係により

$$\alpha + \bar{\alpha} = -1 \quad \text{ゆえに} \quad \bar{\alpha} = -\alpha - 1$$

したがって、 $\alpha^2 = \bar{\alpha}$. 3点 $A(\alpha)$, $B(\beta)$, $C(\bar{\alpha})$ を頂点とする $\triangle ABC$ の重心が $\frac{\sqrt{3}}{3}$ であるから

$$\frac{\alpha + \bar{\alpha} + \beta}{3} = \frac{-1 + \beta}{3} = \frac{\sqrt{3}}{3} \quad \text{よって} \quad \beta = \sqrt{3} + 1$$

(2) $\triangle ABC$ の外接円の中心を γ とする . $|\alpha - \gamma| = |\bar{\alpha} - \gamma|$ より

$$|\alpha - \gamma|^2 = |\bar{\alpha} - \gamma|^2 \quad \text{すなわち} \quad (\alpha - \bar{\alpha})(\gamma - \bar{\gamma}) = 0$$

α は実数ではないので、 $\alpha \neq \bar{\alpha}$. ゆえに $\gamma = \bar{\gamma}$ より、 γ は実数である .

また、 $|\alpha - \gamma| = |\beta - \gamma|$ より

$$\begin{aligned} |\alpha - \gamma|^2 &= |\beta - \gamma|^2 \\ \alpha\bar{\alpha} - (\alpha + \bar{\alpha})\gamma &= \beta^2 - 2\beta\gamma \\ 1 - (-1)\gamma &= (\sqrt{3} + 1)^2 - 2(\sqrt{3} + 1)\gamma \\ (3 + 2\sqrt{3})\gamma &= 3 + 2\sqrt{3} \end{aligned}$$

ゆえに、 $\gamma = 1$ となり、円の半径は $|\beta - \gamma| = \sqrt{3}$

よって、求める外接円は $|z - 1| = \sqrt{3}$

(3) $w = \frac{1}{z}$ より $z = \frac{1}{w}$ を (2) の結果に代入すると $\left| \frac{1}{w} - 1 \right| = \sqrt{3}$

これを平方すると $\left| \frac{1}{w} - 1 \right|^2 = 3$ ゆえに $2w\bar{w} + w + \bar{w} = 1$

したがって $\left(w + \frac{1}{2} \right) \left(\bar{w} + \frac{1}{2} \right) = \frac{3}{4}$ すなわち $\left| w + \frac{1}{2} \right| = \frac{\sqrt{3}}{2}$

よって、 w は中心 $-\frac{1}{2}$, 半径 $\frac{\sqrt{3}}{2}$ の円である .

4 (1) $h(x) = f(x) - g(x) = xe^{-x} - ax$ より

$$h'(x) = (1-x)e^{-x} - a$$

$$h''(x) = (x-2)e^{-x}$$

x	\dots	2	\dots
$h''(x)$	-	0	+
$h'(x)$	\searrow	$-\frac{1}{e^2} - a$	\nearrow

$$\lim_{x \rightarrow -\infty} h'(x) = \infty, \quad h'(2) = -\frac{1}{e^2} - a$$

$h(x)$ が $x = x_0$ で極値をとるとき, $x = x_0$ の前後で $h'(x)$ の符号が変化する. このための条件は, $h'(2) < 0$ であるから

$$-\frac{1}{e^2} - a < 0 \quad \text{すなわち} \quad a > -\frac{1}{e^2}$$

(2) 曲線 C と直線 l の共有点の x 座標は, $h(x) = 0$ より

$$x(e^{-x} - a) = 0$$

C と l が異なる 2 点で交わるとき, $a > 0$ であり, その共有点の x 座標は

$$x = 0, -\log a$$

(i) $0 < a < 1$ のとき, $0 < x < -\log a$ において

$$x > 0, e^{-x} > a \text{ であるから} \quad h(x) > 0$$

したがって, 求める面積は

$$\begin{aligned} \int_0^{-\log a} h(x) dx &= \int_0^{-\log a} x(e^{-x} - a) dx \\ &= \left[-e^{-x}(x+1) - \frac{a}{2}x^2 \right]_0^{-\log a} \\ &= a(\log a - 1) - \frac{a}{2}(\log a)^2 + 1 \end{aligned}$$

(ii) $a > 1$ のとき, $-\log a < x < 0$ において

$$x < 0, e^{-x} < a \text{ であるから} \quad h(x) > 0$$

したがって, 求める面積は, (i) の結果を利用して

$$\begin{aligned} \int_{-\log a}^0 h(x) dx &= - \int_0^{-\log a} h(x) dx \\ &= -a(\log a - 1) + \frac{a}{2}(\log a)^2 - 1 \end{aligned}$$

$$\text{よって} \quad \begin{cases} a(\log a - 1) - \frac{a}{2}(\log a)^2 + 1 & (0 < a < 1 \text{ のとき}) \\ -a(\log a - 1) + \frac{a}{2}(\log a)^2 - 1 & (a > 1 \text{ のとき}) \end{cases}$$

5 (1) $\overrightarrow{AB} = (6, -2, 10) - (1, 3, 5) = 5(1, -1, 1)$

直線 AB 上の点 P の位置ベクトルを

$$\vec{p} = (1, 3, 5) + t(1, -1, 1) = (t+1, -t+3, t+5)$$

とおくと (t は媒介変数), このとき

$$\begin{aligned} |\vec{p}|^2 &= (t+1)^2 + (-t+3)^2 + (t+5)^2 \\ &= 3t^2 + 6t + 35 \\ &= 3(t+1)^2 + 32 \end{aligned}$$

$|\vec{p}|$ が最小となるとき $t = -1$ ゆえに $\vec{p} = (0, 4, 4)$

よって $P(0, 4, 4)$

(2) (1) の結果から $|\vec{a}|^2 = 35, |\vec{b}|^2 = 32, \vec{a} \cdot \vec{p} = 32$

$$\text{よって } \triangle OAP = \frac{1}{2} \sqrt{|\vec{a}|^2 |\vec{p}|^2 - (\vec{a} \cdot \vec{p})^2} = \frac{1}{2} \sqrt{35 \cdot 32 - 32^2} = 2\sqrt{6}$$

解説 $\vec{d} = \vec{b} - \vec{a}, \vec{p} = \vec{a} + t\vec{d}$ とおくと

$$\begin{aligned} |\vec{p}|^2 &= |\vec{a} + t\vec{d}|^2 = |\vec{a}|^2 + 2(\vec{a} \cdot \vec{d}) + t^2 |\vec{d}|^2 \\ &= |\vec{d}|^2 \left(t + \frac{\vec{a} \cdot \vec{d}}{|\vec{d}|^2} \right)^2 + \frac{|\vec{a}|^2 |\vec{d}|^2 - (\vec{a} \cdot \vec{d})^2}{|\vec{d}|^2} \end{aligned}$$

$|\vec{p}|$ が最小となるとき, $t = -\frac{\vec{a} \cdot \vec{d}}{|\vec{d}|^2}$ より $\vec{p} = \vec{a} - \frac{\vec{a} \cdot \vec{d}}{|\vec{d}|^2} \vec{d}$

このとき, $\vec{d} \cdot \vec{p} = 0$ であるから $\vec{d} \perp \vec{p}$

(1) において, 直線 AB の方向ベクトルを $\vec{d} = (1, -1, 1)$ とおくと

$$\vec{p} = (t+1, -t+3, t+5)$$

について, $|\vec{p}|$ を最小にする点を, $\vec{d} \cdot \vec{p} = 0$ から求めることもできる.

また, $A(1, 3, 5), P(0, 4, 4)$ から $AP = \sqrt{3}, OP = 4\sqrt{2}$

このとき, $AP \perp OP$ であるから

$$\triangle OAP = \frac{1}{2} AP \cdot OP = \frac{1}{2} \cdot \sqrt{3} \cdot 4\sqrt{2} = 2\sqrt{6}$$